

4. 大正内港のはしけ棧橋



◆所在地

大正区千島3丁目24番

◆概要

大正中期から昭和初期、千島新田と泉尾新田一帯に、運河・貯木場・水路の開削と道路・橋梁・宅地盛土などの開発工事が実施され、材木業者が誘致された。昭和7、8年(1932、1933年)頃には業者数約600戸の木材街が出現し、その木材市場は業界の一大中心地となった。昭和50年(1975年)に現在の原型となる「大正内港のはしけ棧橋」が整備され、わずかにその面影をとどめている。貯木場の移転後に整備され多くの船舶が係留されている棧橋の姿は、港らしい景観を作り出している。

昭和50年(1975年)に現在の原型となる「大正内港のはしけ棧橋」が整備され、わずかにその面影をとどめている。貯木場の移転後に整備され多くの船舶が係留されている棧橋の姿は、港らしい景観を作り出している。

5. 千本松大橋と千本松渡船場



◆所在地

大正区南恩加島1丁目11番、
西成区南津守5丁目4番

◆概要

千本松渡船は大正区南恩加島1丁目と西成区南津守5丁目を結ぶ(岸壁間230メートル)。千本松の渡しが設けられた年代ははっきりしないが、大正時代の中頃に初めて設けられたものと思われる。現在も通勤通学の貴重な交通手段として利用されている。

昭和48年(1973年)、この岸壁間に千本松大橋が完成した。地元では「めがね橋」の愛称で呼ばれている。橋下を大型船舶が航行できるよう桁下高を33m確保し、両端部の2階式ラセン状ランプウェイを含めた橋長は1,228mにおよぶ。

6. 千歳橋と千歳渡船場



◆所在地

大正区北恩加島2丁目5番、
鶴町4丁目1番

◆概要

千歳渡船は大正区鶴町4丁目と同区北恩加島2丁目を結んでいる(岸壁間371m)。鶴町側からは、多くの船が浮かぶ大正内港のかなたに、昭和山(標高33m)や千島団地等が眺められ、尻無川の広々とした河口風景ともあいまって、ウォーターフロントの美しい景観となっている。

平成15年4月には、この渡しの上に橋長365m、海面からの高さ28mの千歳橋が完成し大正区の新たなランドマークとなっている。

7. 新木津川大橋と木津川渡船場



◆所在地

大正区船町1丁目1番、住之江区平林北1丁目1番

◆概要

木津川渡船は大正区船町1丁目と住之江区平林北1丁目を結んでいる(岸壁間238m)。昭和30年からカーフェリーを運航し乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていたが、上流部に千本松大橋が開通し、今は人と自転車のみを運ぶ渡船となっている。

新木津川大橋は、木津川の河口に位置している大正区と住之江区とを結ぶ橋で、河川内の航路(幅150m、高さ46m)確保のため、橋の全長は2.4kmに及んでいる。本橋は川を渡る主橋(長さ495m 幅員11.25m)と両岸のアプローチ橋で構成され、主橋の形式は経済性と施工性に加えて景観面も考慮して中路式バランスドアーチ型式を採用している。現在、この形式の橋としては日本最大級であり、大阪港を代表する橋の一つである。本橋は平成6年の土木学会田中賞を受賞している。